

# 世界遺産ってなに？

「人類全体のため、未来に引き継ぐべき遺産を守らなければならない」。この課題に対する答えとして、1972年、ユネスコの総会で「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」が取り決められました。そして、世界各地の貴重な環境（自然遺産）や遺跡、建物（文化遺産）を国際的な協力のもと保護しようと始まったのが「世界遺産」です。

日本では現在19か所が登録されており、屋久島や原爆ドーム、明治日本の産業革命遺産などがあります。来年の登録候補は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」で、世界文化遺産登録を目指して取り組みが行われています。



▲金閣寺 ▲富士山

日本でもすばらしい資産が世界遺産に登録されています。



山上憶良が詠んだ歌の歌碑 (福岡市志賀島)



▲秋には満開のコスモスが囲む25号墳。宗像海人族の眠る古墳のうちの一つです。なお、「ムナカタ」は、史料によって「胸形」「胸肩」「宗形」「宗像」などさまざまな使われ方をしています。

「神宿る島」 宗像・沖ノ島と関連遺産群

# 私たちの宝を 世界の宝に

9月8日、国の世界遺産条約関係省庁連絡会議で、「新原・奴山古墳群」を含む「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」を、世界文化遺産の候補として推薦することに決定しました。これから平成29年の登録に向けて、国連教育科学文化機関（ユネスコ）への推薦書提出や、ユネスコ諮問機関の現地調査を受けます。世界文化遺産のあり方を考えながら、私たちの身近にある「新原・奴山古墳群」を見つめ直してみませんか。

## 類まれなる貴重な 国宝の数々

「沖ノ島で見たたり聞いたりはならない」「一木一草一石たりとも持ち出してはならない」。この厳しい禁忌が今も沖ノ島を守り続けています。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の中心的な構成遺産である沖ノ島は「海の正倉院」とも言われます。出土した約8万点に及ぶ奉獻品は全てが国宝に指定されています。中には、中国や朝鮮、ペルシアからの奉獻品も出土し、対外交流の内容なども示す貴重な資料です。また、沖ノ島は、古代より島そのものが信仰の対象とされてきました。島では、朝鮮半島や中国大陸との交流が盛んに行われた4世紀〜9世紀、航海の安全と交渉の成就を祈願した祭祀が行われていました。千数百年が経った現在でも、その祭祀跡を残す世界的に貴重な遺産群です。

## 海に生きた 宗像海人族

かつて宗像の地で栄えた宗像海人族。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、彼らの生活を今に伝えます。

宗像海人族は、航海技術にたけた人たちでした。現在のよう交通の発達していない時代に、船を使って周辺地域との交易などを行い栄えました。

また、宗像海人族以外にも、日本各地に海に生きる人たちがいました。かつて福岡市の志賀島の周辺に住んでいた安曇阿曇氏も、海をなりのわいの場としていました。そして、

安曇氏との関わりを示すこのような歌が残されています。

沖つ島  
鳴とふ船は也良の崎  
たみて漕ぎ来と  
聞こえこぬかも

この歌は、宗像の津麻呂に代わって対馬へ出航した安曇の荒雄という男にまつわるものです。その荒雄が途中の暴風雨で命を失い、残された荒雄の妻子の心の痛みを、歌人の山上憶良が詠んだとされています。この歌が示すように、海をなりのわいの場にする人たちは、氏族は違おうと互いに仕事で助け合う間柄であり、密な交流があったようです。

その中で最も成功した海人族の一つが、宗像海人族だったのです。そのような人たちの歴史や伝統を今に残すのが「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」です。



第39回世界遺産委員会の様子▶

## 宗像大社の誇る資産

沖津宮、中津宮、辺津宮の宗像三女神を信仰する宗像大社。「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の中心的な資産です。かつて九州から朝鮮半島への海上路である「海北道中」を支配した宗像氏や海の民の存在を今に伝えています。日本最古の歴史書である古事記や日本書紀にも登場するほど古い歴史を持っています。



禁忌により島に入ることに厳しく制限される沖ノ島の中にあります。巨大な岩の間に社殿が築かれており、古代祭祀の跡が手付かずのまま残っています。宗像三女神のうち「田心姫神」が祀られています。

### 沖津宮

### 中津宮

宗像市大島にあり、「湍津姫神」を祀っています。また、島内で最も高い御嶽山の山頂には祭祀遺跡があります。さらに、大島の北側には沖ノ島を御神体として拝むための沖津宮遙拝所が設けられています。



### 辺津宮

九州本土、宗像市田島にあり、宗像大社の神事を中心です。古代の海に生きる人々の信仰を土台にした、交通安全の神としても信仰され、多くの人が参拝に訪れます。「市杵島姫神」を祀っています。



30号墳



全長54メートルにもなる前方後円墳です。現在大雨により側面が崩れており、慎重な修復作業を行っている最中です。しかし、道路から側面部を見ても、前方後円墳の形を捉えることができる美しい古墳です。また、秋には古墳の周りにコスモスが咲き、美しい景色が広がります。

34～43号墳



10基のうちすべてが直径15メートル以下の小規模の円墳です。6世紀に造られたと考えられています。宗

像氏に支配された海の民のものと考えられています。眺望所からは、これらの古墳群が玄界灘に向って一直線に延びる姿を一望することができます。古墳群でいちばんの絶景スポットです。

●眺望所  
昭和学園（奴山616）前面の駐車場奥

1号墳



全長50メートルの前方後円墳で5世紀の中頃に造られました。発掘調査が行われた数少ない古墳の一つです。副葬品として冑や鎧、刀剣類、ガラス玉が出土しました。現在でも石室に使われた石が古墳の上部にあります。外からは見ることができない、古墳の中の一部としてあったものを見ることができません。

7号墳



古墳群で唯一の方墳です。一辺が24メートルで、5世紀の前半に造られたと考えられます。古墳の中央部には玉砂利がしかれており、外面が飾られていたと考えられます。須恵器の破片や、鉄斧、コハクの原石などが出土しています。また、中央部の平坦な箇所は、祭壇として使われていたのではないかとという説があります。

21号墳



直径17メートルの円墳です。古墳の上には、後世の鎌倉時代に作られたと考えられている、梵字や仏像が彫られた板碑が並んでいます。（囲い柵があるため、見学の際は市教育委員会へ事前連絡が必要です）

22号墳

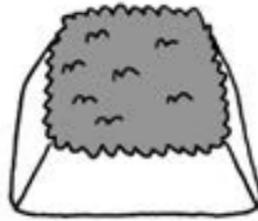


古墳群の中で最大です。全長が80mもの前方後円墳ですが、前方部分は土の採取などで失われてしまっています。また、古墳の上には縫殿神社のほらが建てられ、荘厳な雰囲気醸し出しています。

他の古墳と比べて大きさや構造から、胸形君の墳墓ではないかと考えられています。

### 古墳ってなに

古墳とは、3世紀の後半から7世紀（古墳時代）に16万基も作られた、当時の有力者たちのお墓です。新原・奴山古墳群の中にもある、代表的な古墳の種類を紹介します。



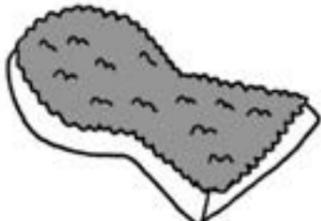
方墳

上から見ると四角形の古墳です。宗像地域ではあまり見られない形です。



円墳

丸い形に土を盛り上げた古墳です。造られた数は最も多く、日本全国にまんべんなく広がっています。一か所に集中して造られることが多いようです。



前方後円墳

円墳と方墳が重なったような形をしています。通常、石室などは後円部に造られています。

# 歴史あふれる資産がいっぱい

勝浦地域、津屋崎地域は、江戸時代頃に干拓されるまで入り海でした。宗像海人族の墳墓である新原・奴山古墳群は、すぐ前に広がる入り海を望む形で造られていました。前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の合計41基が集中する非常に貴重な資産です。これらは、5世紀の前半から6世紀にかけて築かれています。そして千年以上たった現在でも、その姿を間近に見ることができません。

# 応援します 世界文化遺産登録

世界文化遺産へ登録されるためには、市民の皆さんの熱い思いが必要不可欠です。地域の盛り上がりをもっと日本全国に、そして世界に伝えなければなりません。「新原・奴山古墳群」をたくさんの人に知ってもらおうと活動するかたがたに話を伺いました。

つやぎ観光馬車

増田 美佐子さん



古墳群のことを知るだけでなく、「体感」してみたい

昭和の初め頃までは、福

間駅から津屋崎に馬車鉄道が走っていたんです。このような馬と関わりが深い地域で、お客さんと馬車で古墳群を巡っています。馬のひづめの音や馬車の揺れ、ゆっくりと変わる景色が、歩くとときは違う雰囲気を出してくれます。お客さんからは「タイムスリップしたみたい」と言われることも。いつもとは違う古墳群の魅力も、肌で体感してもらえたらと思います。



観光ボランティアガイド

有吉 敏高さん



「故郷はこんなに素晴らしい」それを再認識してもらいたくて

本を読んだり、人の話を

聞いたりして、おもしろいと思ったことをガイドで紹介しています。特に市民の皆さんには、自分たちの地域にある古墳群を誇りに思ってもらえるようにがんばっています。そして、私たちのガイドツアーに参加してくれた人が、次のガイドになってくれるとうれしいです。仲間をどんどんつなげて、古墳群の話で盛り上がるようになれば、さらに良いですね。



福津民話劇団

柳原 正弘さん



じいちゃんばあちゃんが語る昔話のよつに伝えていきたい

私たちの作品のテーマは、守られてきた古墳群を次の

世代にどう伝えるかなんです。そこで、主役にしたのが「民」でした。いくら有力な指導者がいようと、あれだけ大きな古墳群を守るには、簡単ではないはず。子や孫に守り伝えようと、昔の民がいなければ、遺産は残らないでしょう。そして、今度は私たちが守っていかねばならないのです。それを劇で伝えられたらと思います。



福津市商工会

原田 誠さん



新原・奴山古墳群といっしょに、みんなが元気になることを目指します

商業に携わる者として、店先でのぼりを立てたりス

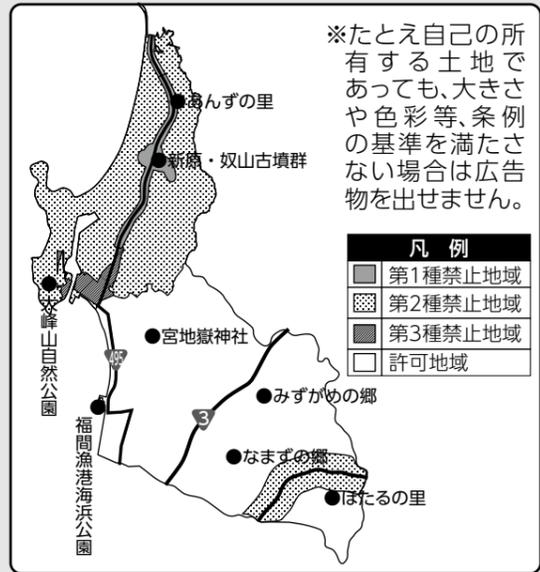
テッカーを貼るなどしていません。観光協会と足並みをそろえて、古墳群を知ってもらおうきつけをつくりだしたいと思っています。さらには、買い物に来てくれたお客さんが古墳群に立ち寄りしてくれるように、人の流れを作り出すことに商業の力を発揮できたらと考えています。道のりは違っても、目指すところは「世界文化遺産」登録という、みんなと同じ目標を持ちがなばついています。古墳群の魅力を多くの人に伝えられるように、一丸となって進んでいきたいと思います。

## 11月1日から「福津市屋外広告物条例」を施行しました。

この条例は、屋外の看板等の広告物に関してより詳細な基準を設けて、まちの景観を守るために定めたものです。平成27年11月1日以前に「福岡県屋外広告物条例」の許可を受けていたものは、変更や改造をしなければ、市条例の規定による許可を受けることができます。(許可期間満了については、更新申請が必要です)。

詳細は市公式ホームページ及び市都市計画課窓口で配布する手引きで確認してください。

以下の地図では3種類の禁止地域と1種類の許可地域を表しています。



問い合わせ 福津市都市計画課(津屋崎庁舎) ☎52・4956

まちを見つけて、みんなを応援

市民の皆さんに加えて、事業者も応援してくれています。

### のぼり

市内の商工会、観光協会に所属する事業者の皆さんに、世界遺産登録を応援するのぼりを立ててもらっています。



### 宗像エリアの路線バス

西日本鉄道株式会社と西鉄バス宗像株式会社とのバス55台に世界遺産登録を応援するマグネットシートが張られています。



### タクシー

宗像タクシー協会の200台のタクシーに世界遺産登録を応援する取り組みとして、マグネットシートを張っています。



### 福津市ラッピングバス

トヨタ自動車九州株式会社が、市の公用バスにラッピングを行いました。匠の塗装技術で新原・奴山古墳群が描かれています。



# こんなにも価値があります 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」専門家会議の委員長である  
考古学者の西谷正先生に話を伺いました。



西谷 正 先生

**プロフィール**  
1938年大阪府生まれ。九州大学名誉教授、九州歴史資料館名誉館長、糸島市立伊都国歴史博物館名誉館長、海の道むなかた館長、国指定史跡津屋崎古墳群整備指導委員会委員長。

私たちは歴史のストーリーの中の二部に生きています。  
遺産群を未来へとつないでいく義務があります。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の価値とは

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、独自の信仰や伝承を示しています。古代に500年以上続いた東アジアの国々との国際交流。そこには海の守り神があがめた、信仰と祭祀が大きく関わっていました。

当時、遠く海を渡って行く他国との交流は、大きな危険を伴いました。海の守り神への信仰のもと、沖ノ島で航海の安全や、他国との交渉の祈願が盛んに行われました。さらに、この祈願に当時の国家が関わっていたこと

は、特筆すべきことです。また、この信仰は、沖ノ島の祭祀遺跡での発掘調査から、4段階の変遷を経ていることが分かりました。しかも、それらは世界的にも非常に良好な状態で残っていたのです。

**新原・奴山古墳群はどのような位置づけられるのでしょうか**  
海の守り神をあがめる信仰や祭祀は、時代が移り変わって二人の女神を祀ります。それが古事記や日本書紀にも記されている、宗像三女神と呼ばれる神たちです。そして、この三女神を祀り、祭祀を行ったのが胸形君とされています。

しています。また、海を望む地形に古墳群が造られていることから、胸形君の墳墓と考えられます。このように新原・奴山古墳群は、胸形君の存在を示す重要な証拠として、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」を構成しています。

先人たちが守ってきたものです。そして、未来の人たちに守り伝えたいといけないものでもあるのです。また、遺産だけが守る対象ではありません。遺産を含む周辺の環境も保全することが必要です。できる限り昔のままの風景を保ち、後世に伝えなければなりません。

露天祭祀	半岩陰・半露天祭祀	岩陰祭祀	岩上祭祀
8世紀～9世紀 完全に巨岩から離れて、平らな露天で祭祀を行います。最後の祭祀形態です。	7世紀後半～8世紀前半 徐々に岩の根元から離れた場所で祭祀を行いました。露天祭祀までの過渡期です。	5世紀後半～7世紀 巨岩がせり出し、影となった部分に祭壇を設けて祭祀が行われました。	4世紀後半～5世紀 巨岩の上を神が降臨する場として、祭祀が行われました。

沖ノ島では古代祭祀の跡が現在まで守られてきました。そこからは、移り変わりが分かります。

沖ノ島  
古代祭祀の  
移り変わり

## 世界文化遺産国内推薦候補決定

### 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

# フォトコンテスト作品群募集!!

遺産群の魅力を多くの人に知ってもらうために  
フォトコンテストを開催します。遺産群を後世へ「守り、伝える」熱い思いの詰まった写真を募集します。

**募集期限** 平成28年1月12日(火) ※撮影日時は問いません。

**募集部門**

- ・未来へつなぐ遺産の風景
- ・発見!沖ノ島遙拝スポット
- ・守り伝える地域の活動

**応募方法**

A4サイズのプリント作品を(3点まで)郵送または持参してください。

応募条件など詳しくはホームページを御覧いただくか、福岡県世界遺産登録推進室に問い合わせください。

**応募、問い合わせ** 〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号 福岡県世界遺産登録推進室フォトコンテスト担当 ☎092・643・3162  
ホームページ <http://www.okinoshima-heritage.jp/>